

この冬を安全に走るための、 簡単タイヤチェック・ 冬道の安全運転ポイント

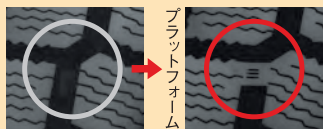
Check 1 !!

タイヤの溝は残っていますか？

プラットフォームが露出したら タイヤ交換を！

スタッドレスタイヤは、
溝の深さが50%に減り「プラットフォーム」が露出すると
冬用タイヤとしては使用できません。

残り溝が新品時の
50%になったら交換の時期！



新品時

残り溝50%

コレがプラットフォームの目印(↑)



夏用タイヤとして使用する場合

残り溝が1.6ミリ以下のタイヤは使用してはいけなくと法律で定められています※。
スリップサインが出たらタイヤ交換の時期です。

※小型トラック用タイヤで高速道路を走行の場合、残り溝2.4mmが目安です。

残り溝1.6mmの目安は、スリップサイン！



新品時

残り溝1.6mm

コレがスリップサインの目印(▲)



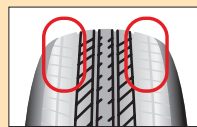
※説明のために着色しています。

偏摩耗していたら早めのタイヤ交換を！

偏摩耗はタイヤの寿命を短めます。空気圧の確認、
アライメントの測定・調整を行いましょう。5,000kmを目安に定期的なタイヤの
位置交換(ローテーション)をおすすめします。



センター摩耗
(空気圧過多による)



ショルダー摩耗
(空気圧不足による)



片減り
(ミニバンなどの重い車に多い)

Check 2 !!

傷やひび割れはありませんか？

傷・ひび割れがあったら タイヤ交換を！

異物がささっていたり、傷・ひび割れを発見した場合は
早めのタイヤ交換をおすすめします。
このような状態は、パンクなどのトラブルの原因になります。

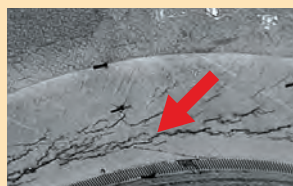
切り傷(一般的な外傷)



擦り傷(車体の干涉など)



ひび割れ(オゾンクラック)



溝部の裂け(グルーブクラック)



傷の主な原因

- 空気圧不足などによる過度の屈伸
- 傷などによる局部への応力の集中
- 紫外線や熱などによる劣化
- 縁石乗り上げなどによる過荷重など

ひび割れの主な原因

- 路上の障害物や縁石などの接触
- 石噛みなどの異物
- 空気圧不足などによる過度の圧縮伸長
- 空気圧過多による必要以上の緊張など



Check 3 !!

空気圧は大丈夫ですか？

使用開始時と、月に一度の空気圧チェックを！

空気圧は使用中にも保管中にも、自然に減少します。

空気圧の低下はトラブルのもと。

定期的に適正かどうか点検しましょう。

タイヤの空気圧が低下してくると…

① 走行性能が低下する！

タイヤのたわみが増えるので、運転のしっくり感が低下します。またどんなに高性能なタイヤでも性能が維持できず、安全に影響があります。



② 偏摩耗しやすい！

通常、空気圧不足ではトレッドの両肩の偏摩耗、空気圧過多ではトレッド中央の偏摩耗やショックバーストが起こりやすくなります。

③ 燃費が悪くなる！

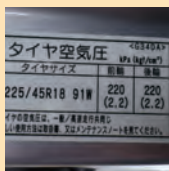
タイヤの「ころがり抵抗」が大きくなり、エネルギーロスから燃費悪化につながります。

空気圧チェックポイント

●指定空気圧は車やタイヤサイズによって違います。運転席側のドア付近等にある指定空気圧表示シールを確認してください。なおタイヤサイズを変更した場合は、適正な空気圧をタイヤ販売店に必ずご相談ください。



運転席側ドア付近等



指定空気圧表示シール

●チューブレスバルブはタイヤと同様ゴム素材ですので、長く使用するうち、熱などで性能が劣化し、劣化部分から空気が漏れてしまいます。タイヤ交換時、古くなったバルブと一緒に交換するのがおすすめです。



バルブ取付部の緩み

緩みや振動によるゴムの劣化

バルブコアのゴムの劣化

ゴム部分の傷みやゴミなど

Check 4 !!

冬道の安全運転のポイントは？

「早め早め」に「ゆっくり」と。

1. 運転前に

- ①体をウォームアップして正しい運転操作ができるように！
- ②服装は、運転操作の邪魔にならないもので！(厚手のジャンパー等は脱いで)
- ③車の走行前点検も忘れずに！(特にフロントガラスが汚れやすい雪解け時には、凍結防止をしたウォッシャー液の補充を忘れずに)

2. 車に乗り込む時に

- ①ペダル操作を誤らないよう、靴底の雪などは落として乗り込みましょう。
- ②他車の迷惑にならないよう、車の上の雪は落として乗り込みましょう。
- ③車内に巻き込まないように、車に雪が積もっていたらドアの開閉も慎重に！



3. 発進のポイント

- ①ローまたはセカンドギアで、タイヤを空転させないようにゆっくり発進しましょう。
- ②坂道発進は、MT車は半クラッチの状態ですらサイドブレーキをゆっくり戻しながら、AT車はアクセルを離した状態でゆっくり進みクレーピング現象を利用しながら発進し、徐々にアクセルを踏んでいきます。

4. 走行中の注意

- ①交差点付近やカーブの手前では、早め早めの減速を。
- ②橋の上や山間部では、特に凍結やスリップに注意しましょう。
- ③日中でも、日陰や山陰などは雪や氷が残っている場合がありますので注意が必要です。
- ④車間距離は充分とり、車線変更は慎重に安全確認してから行いましょう。
- ⑤また2〜3台前の車の動きを見て状況を早く判断することも大事です。
- ⑥わだちから抜け出すときは、対向車や歩行者がいないことを確認して、少し速度をおとしてから一気に抜け出します。
- ⑦除雪や巻き上げられる雪煙などで視界が妨げられるので注意が必要です。また特に見通しのききにくい夜間は、ヘッドライトやテールランプについた雪をこまめに取り除きましょう。
- ⑧下り坂では、エンジンブレーキ。AT車も状況に応じて手動でシフトダウンを。



5. ブレーキング

- ①タイヤをロックさせないように、ブレーキは早め早めにゆっくり踏みましょう。

6. コーナリング

- ①カーブには、入る手前の直進時に充分減速して進入しましょう。
- ②急なアクセルオン／オフによるスリップを避けるため、コーナリングは一定の速度で。

7. 駐車のポイント

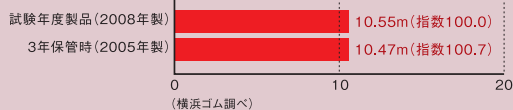
- ①エンジン部を風下にし、ハンドブレーキはかけずに、MT車の場合はローまたはバックギアに、AT車の場合はPレンジにシフトして駐車します。またハンドブレーキは長時間かけていると、凍ってききっぱなしになってしまうことがあります。
- ②ワイパーブレードは、フロントガラスに凍りつかないように上げておいた方が良いでしょう。
- ③ドアキーは凍ることがありますので注意しましょう。

新品タイヤは在庫期間中に性能変化する？

適正に保管されたタイヤは、3年間は性能を保ちます。

適正に保管された新品のスタッドレスタイヤは、3年間は氷上制動性能を保つことが試験で確認されています。

■保管期間と氷上制動距離の関係



●氷上制動 (G20 2008年製10.55m(100.0) / G20 2005年製10.47m(100.7)) <試験条件>テスト日程 / 2008年6月13日、テスト場所 / 新横浜スケートセンター、路面状況 / 氷上、天候 / 室内、気温 / 12.1〜12.6℃、氷温 / −3.1〜−3.0℃、制動速度 / 20km/h、制動方式 / ABS制動、タイヤサイズ / 205/55R16 91Q、リムサイズ / 16×6.5J、空気圧 / 220kPa、車両 / トヨタ オリス、乗車人数 / 1名、<試験方法>制動距離を各々5回計測し、最大、最小を除いた3回の平均値を算出。<試験タイヤ>2008年製セリアル / 2008×4本、2005年製セリアル / 2105×4本、試験タイヤは横浜ゴム及びヨコハマタイヤ販売会社の倉庫で適正に保管され経過したものを使用。※記載した数値はあくまでも一定の条件で計測されたものです。その数値は車両の性能、気温、路面状況等により変わり、普遍的なものではありません。よって異なる条件下の数値とは比較できませんのでご了承下さい。※テストに関する詳細なデータはタイヤ公正取引協議会に届け出てあります。

シーズン後の正しい保管方法は？

シーズン後に使用したタイヤを保管する場合、直射日光、紫外線、雨水、オゾン、油、熱等に弱いため、直射日光や雨にさらされる場所に置いておくとゴムの劣化スピードが早まります。保管する場合は、暗く涼しい所に置くことが大切。またホイール付きで保管する場合は、ゴムやコードの緊張状態を和らげるため、空気圧を半分程度にすることをすすめます。



- タイヤ内部に水が入らないよう、雨の時は室内へ。
- 油や水が付いたり、傷や変形の恐れがある場所は避けましょう。
- 発電機やバッテリーなどのそばには置かないようにしましょう。
- 長時間タイヤを取り外して保管すると、タイヤ内部の薬品がにじみ出て床を汚す恐れがありますので控えましょう。